高知県感染症発生動向調査（週報）

２０２３年　　第５週　（１月３０日～２月５日）

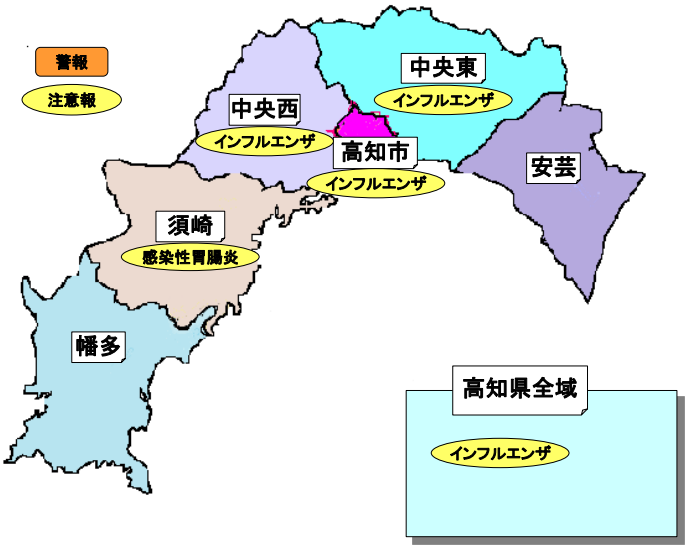
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症　（上位疾患５疾患）

↑：急増　↗：増加　→：横ばい　↘：減少　↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	→	11.78	幡多で急減していますが、中央西で急増、中央東、安芸で増加し、県全域、中央西、高知市、中央東では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↗	8.44	安芸で減少していますが、幡多で急増、県全域、須崎、中央西で増加し、須崎では注意報値を超えています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	0.52	県全域、安芸、幡多、須崎で急増、高知市で増加しています。
突発性発疹	↘	0.26	須崎で急減、県全域、中央東、高知市で減少していますが、安芸で急増しています。
手足口病	→	0.22	中央東で減少していますが、高知市で急増しています。
RS ウイルス感染症	↓	0.22	県全域、幡多、高知市、中央西で急減していますが、中央東で急増しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

手洗い：感染症予防の基本は手洗いです

・爪は短く切っていますか?

・指輪・時計ははずしていますか?

1)　石けんを泡立て、てのひらをよくこすります

2)　手の甲、指の間や指先、ツメの間まで丹念にこすります

3)　親指をねじり洗いし、手首も忘れずにあらいます

4)　石けんを洗い流し、清潔なタオルで拭き取って乾かします

汚れの残りやすいところも丁寧に：指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手のしわ

タオルの共有は避けましょう

★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

〇インフルエンザに気を付けて！

第 5 週のインフルエンザ定点医療機関における迅速診断では、インフルエンザ A 型 519 件、インフルエンザ B 型 1 件、A 型 B 型同時検出 1 件の報告がありました。

学校等における集団発生の報告では、休校、学年閉鎖、学級閉鎖の報告が続いています。

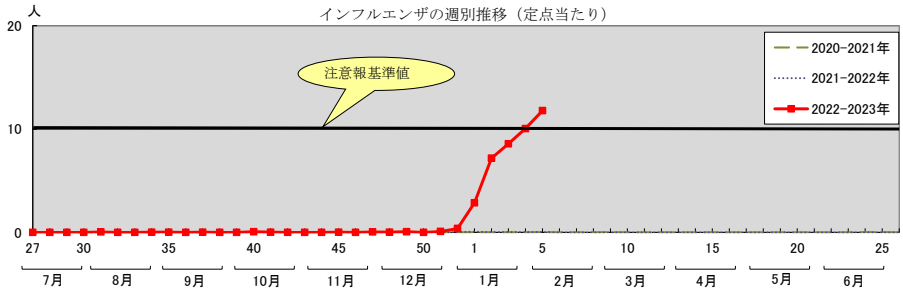
学校等における集団発生　　※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
休校	第5週	-	-	-	1	-	-
	累計	-	-	2	1	-	-
学年閉鎖	第5週	2	-	1	-	-	-
	累計	2	1	2	1	1	-
学級閉鎖	第5週	-	2	3	-	-	-
	累計	-	5	10	-	-	1

また、国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、2022 年第 36 週～2023 年第 4 週では AH3 の検出割合が最も多く 95.5%（277 件）、次いで AH1pdm09 が 3.4%（10 件）、B（ビクトリア系統）が 1.0%（3 件）の順でした。

インフルエンザは突然の発熱で始まり、半日以内に 38℃を超える高熱となり、しばしば頭痛や筋肉痛を伴い、発熱は 3 日程度続きます。潜伏期は 18～72 時間程度です。

インフルエンザの流行期に入ったので、帰宅後の手洗いなどの感染予防を心がけましょう。症状がある方は、マスクを着用し、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた食事、人ごみを避けるなどの対策も有効です。感染力は強く、短期間に多くの人へ感染が拡大します。学校等では集団発生による学年閉鎖、学級閉鎖の報告が増えることが予想されますので、注意が必要です。



＜予防方法＞　　手洗いと咳エチケットを心がけましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。感染予防のため手洗いと**咳エチケットを**心がけてください。

●厚生労働省　「インフルエンザ総合ページ」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

咳エチケット

（1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。

（2）咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。

（3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

【学校感染症】

インフルエンザは学校保健安全法（同法施行規則第 19 条）では、出席停止期間の基準が「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては、3 日）を経過するまで」と規定される学校感染症（第 2 種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないと規定されています。

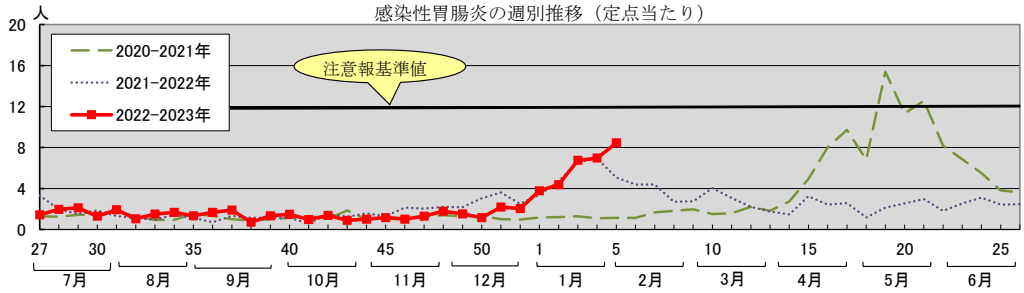
○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルスによる胃腸炎の報告が継続しています。

この病気は、ウイルス又は細菌などの病原体により嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。

潜伏期は、ノロウイルスは 12～48 時間程度、その他のウイルスは 24～72 時間程度、細菌は数時間～5 日程度です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、年間を通じて発生しますが、特に冬場に流行します。発症してから通常 1 週間以内に回復しますが、症状消失後も 1 週間程度、長い時には 1 ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な集団感染となることもあり注意が必要です。



＜予防方法＞

・帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

・ウイルスによる感染性胃腸炎では便や嘔吐物を処理する時は気を付けましょう。
感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう（ノロウイルスに対してアルコール消毒は無効です）。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

【学校感染症】

感染性胃腸炎（流行性嘔吐下痢症）は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、条件によっては第3種の感染症の「その他の感染症」となります。出席停止期間の基準は「下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能」ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときはこの限りでないと規定されています。

ダニの感染症（SFTS・日本紅斑熱）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で 3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「**マダニに咬まれないこと**」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニ・ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニ・ツツガムシに咬まれていないか確認しましょう。

ペットの散歩等でマダニ・ツツガムシが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニ等に咬まれたこと）を申し出てください。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生環境研究所　ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内　　容	保健所
2 類	結　　核	1	4	90 歳代 男性	中央西
5 類	梅　　毒	1	6	70 歳代 男性	高知市

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
5	-	下痢,	3	男	高知市	Adenovirus 41
5	感染性胃腸炎	下痢,腹痛,	6	女	須崎	Adenovirus 41
5	-	38℃,頚部リンパ節腫脹	7	女	須崎	Human herpes virus 7
5	インフルエンザ	40℃,咳嗽,嘔吐・頭痛	7	男	高知市	Influenza virus A H3 NT
5	感染性胃腸炎	38℃,下痢,嘔吐,	2	女	須崎	Norovirus GII NT
5	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,	2	女	須崎	Norovirus GII NT
5	感染性胃腸炎	38℃,嘔吐,	9か月	男	須崎	Norovirus GII NT
5	感染性胃腸炎	嘔吐,	1	女	幡多	Norovirus GII NT
5	感染性胃腸炎	嘔吐,	1	女	幡多	Norovirus GII NT

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情　　報
安　芸	田野病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例（3 歳男） アデノウイルス腸炎 1 例（1 歳男）
中央東	早明浦病院小児科	インフルエンザ A 型 1 例 COVID-19 3 例（1 歳男、2 歳男、5 歳男）
	JA 高知病院小児科	マイコプラズマ気管支炎 4 例 RSV 気管支炎 2 例 インフルエンザ A 型 48 例、A・B 両方 1 例
高知市	高知医療センター小児科	ノロウイルス 5 例（4 か月女、1 歳男 2 人、1 歳女、2 歳女） hMPV 1 例（1 歳男） インフルエンザ A 型 8 例
	けら小児科・アレルギー科	ノロウイルス胃腸炎 23 例 （0 歳 2 人、1 歳 14 人、2 歳、3 歳 4 人、5 歳 2 人） インフルエンザ A 型 53 例、B 型 1 例
	三愛病院小児科	hMPV 1 例（2 歳男）
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 7 例 インフルエンザ A 型 28 例 インフルエンザ A 型、溶連菌同時感染 1 例（7 歳男） 胃腸炎の流行は続いている
	細木病院小児科	ノロウイルス 4 例（1 歳女 2 人、2 歳女 2 人）
中央西	くぼたこどもクリニック	感染性胃腸炎 1 例（4 歳女：須崎市） インフルエンザ 2 例（2 歳女：いの町、4 歳女：須崎市） 越知町でインフルエンザ A 型流行
須　崎	もりはた小児科	アデノウイルス扁桃炎 1 例（1 歳） 感染性胃腸炎 38 例（保育所中心に流行有） インフルエンザ A 型 28 例 hMPV 4 例 COVID-19 17 例
幡　多	こいけクリニック	ノロウイルス胃腸炎 4 例（1 歳男女、2 歳女、3 歳女）
	さたけ小児科	水痘 1 例（4 歳男：ワクチン 2 回済） ノロウイルス 2 例（1 歳男、2 歳女） COVID-19 6 例（0～13 歳）
	幡多けんみん病院小児科	ノロウイルス感染症 3 例 COVID-19 9 例（15 歳以下） 第 3 週追加 細菌性髄膜炎 1 例（1 か月男：起因菌 B 群溶血性レンサ球菌）

★注目すべき感染症
　〇インフルエンザ

（国立感染症研究所IDWR2023年第3号より）

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因病原体とする急性の呼吸器感染症で、世界中で流行がみられる。主な感染経路は、咳、くしゃみ、会話等により発生する飛沫による感染（飛沫感染）であるが、物の表面等に付着した飛沫に触れた手指を介した接触感染もある。症状としては、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻汁・咳などの呼吸器症状がこれに続く。いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴であるが、通常は1週間前後の経過で軽快する。症状のみで新型コロナウイルス感染症（COVID-19）との鑑別は困難である。

インフルエンザの発生状況は、感染症法に基づき、全国約5,000カ所のインフルエンザ定点医療機関（小児科定点約3,000、内科定点約2,000）から毎週、届出される患者数等から把握されている。2020/21シーズンおよび2021/22シーズンのインフルエンザ定点当たり報告数のピークは、それぞれ0.02、0.04と非常に低いレベルであり、全国的な流行開始の指標である1.00を上回ることはなかった（シーズン：第36週～翌年第35週）。しかし、2022/23シーズンは、2022年第40週以降、第47週を除いて継続して増加し、第51週（12月19～25日）には1.24（報告数6,103例）と1.00を上回ったため、全国的にインフルエンザは流行期に入ったと判断された。その後も定点当たり報告数は、第52週2.05、2023年第1週4.73、第2週7.37、第3週9.59（報告数47,366）と継続して増加した。なお、第3週（2023年1月16～22日）の都道府県別の定点当たり報告数は、沖縄県（38.77）、福岡県（20.59）、大阪府（20.46）、宮崎県（17.59）、佐賀県（16.92）、京都府（15.31）、長崎県（14.80）、石川県（13.69）、福井県（12.14）、兵庫県（12.13）、奈良県（10.87）、和歌山県（10.61）、大分県（10.40）、鹿児島県（9.72）、香川県（9.45）、愛媛県（8.92）、神奈川県（8.86）、三重県（8.80）、熊本県（8.75）、高知県（8.58）、千葉県（8.53）、東京都（8.50）、富山県（8.33）、北海道（8.19）、広島県（8.19）、青森県（8.02）、愛知県（7.96）、滋賀県（7.52）、埼玉県（7.09）、徳島県（6.16）、岡山県（5.83）、栃木県（5.70）、茨城県（5.58）、長野県（5.57）、新潟県（5.44）、群馬県（4.71）、静岡県（4.56）、福島県（4.40）、島根県（4.26）、山口県（4.20）、鳥取県（3.86）、岐阜県（3.41）、秋田県（2.61）、宮城県（2.33）、山形県（2.30）、山梨県（1.85）、岩手県（1.08）の順となっている。38都道府県で前週の報告数よりも増加がみられた。また、直近3週間（2023年第1～週）の定点医療機関（全国約5,000）からの累積報告数の男女比は、15歳未満の年齢群では1．2：1 、15～9歳の年齢群では1．9：1 、20～9歳の年齢群では1．3：1 と男性に多く、30～9歳の年齢群では1：1．3 とやや女性に多かった。小児では男性が多く、30～40代では女性が多い傾向は、例年と同様である。

定点医療機関からの報告を基に、2023年第3週に、定点以外を含む全国の医療機関を受診した患者数を推計すると、約28.7万人（95%信頼区間：26.1～31.3万人）となり、前週の推計値（約25.7万人）よりも増加した（2023年1月25日現在）。年齢別では、0～4歳が約4.8万人、5～9歳が約8.7万人、10～14歳が約4.5万人、15～19歳が約2.8万人、20代が約2.1万人、30代が約2.3万人、40代が約1.7万人、50代が約0.8万人、60代が約0.5万人、70歳以上が約0.4万人となっている。2022年第36週～2023年第3週の推計受診者数の累積は約89.4万人となった。

病原体サーベイランスにおける、インフルエンザウイルス分離・検出速報によると、2023年1月27日現在インフルエンザウイルス分離・検出報告数は、2020/21シーズンは6株、2021/22シーズンは53株（うち48株は2022年第25～35週）のみであった。しかし、2022/23シーズンは、2023年1月25日現在、AH3亜型が164株、AH1pdm09が9株、B型が2株（ともにビクトリア系統）検出されている〔直近5週間の2022年第51週～2023年第3週では、AH3亜型が109株（95%）、AH1pdm09が5株（4%）、B型が1株（1%）であった〕。

全国約500カ所の基幹定点医療機関からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス； インフルエンザによる入院患者を対象とし、より重症な患者数の推移を反映）においては、2020/21シーズン、2021/22シーズンは週ごとの報告数のピークはともに10例未満であった。しかし、2022/23シーズンには、2022年第48週以降、第48週5例、第49週12例、第50週13例、第51週36例、第52週74例、2023年第1週167例、第2週195例と継続して増加傾向であった。第3週は163例と減少したが（2023年1月25日現在）、直近の週は届出の遅れ等で少なく集計される場合があることに注意が必要である。なお、第3週の年齢別の報告数は、1歳未満（11例）、1～4歳（34例）、5～9歳（37例）、10代（18例）、20代（1例）、30代（6例）、40代（4例）、50代（3例）、60代（1例）、70代（14例）、80歳以上（34例）であった。今シーズンの基幹定点におけるインフルエンザによる入院患者の累積報告数は688例となり、10

歳未満が293例（42.6%）、70歳以上が193例（28.1%）であった。

5 類感染症の全数把握疾患である急性脳炎におけるインフルエンザ脳症の報告数は、2020/21シーズンは0例、2021/22シーズンは1例であった。しかし、2022/23シーズンには、2023年第2週に3例（A型2例、型不明1例）、第3週に1例（A型）と散発的に発生を認めている（2023年1月25日現在）。

感染症法に基づくサーベイランス以外の情報においても、2020/21シーズン、2021/22シーズンのインフルエンザの発生状況はともに低いレベルで推移したが、2022/23シーズンはより高い水準で、かつ増加傾向となっている。2023年第3週のインフルエンザ様疾患発生報告数（全国の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様症状の患者による休校数、学年閉鎖数、学級閉鎖数）は、休校10件、学年閉鎖158件、学級閉鎖928件が報告され、2022年第36週以降の累積では休校19件、学年閉鎖209件、学級閉鎖1,178件となった（2023年1月27日現在）。「国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向」〔国立病院機構140病院で、医師がインフルエンザを疑い、インフルエンザ迅速抗原検査を実施した検査件数と陽性となった数の報告〕のデータにおいては、11月中旬～下旬以降、検査数・陽性数・陽性率のいずれも継続して増加傾向である。直近の2023年1月1～15日では、11,206件の検査のうち、インフルエンザ陽性は811件（A型801件、B型10件；陽性率7.2%）となっている。

インフルエンザにおいては、約3年ぶりに全国的な流行を認め、COVID-19も流行が継続している。二つの感染症に共通する個人の予防策として、マスクの適切な使用、手洗い・手指衛生の徹底、適切な換気の実施等が勧められる。医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐことや、ワクチン（インフルエンザワクチン、新型コロナワクチン）の接種を検討することも重要である。なお、2022/23シーズンは、例年通りA型2亜型とB型2系統による4価のインフルエンザワクチンが製造されており、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される者、あるいはヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な者は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。2022/23シーズンを通したインフルエンザワクチンの供給量は、記録が残る中で過去最大の3,521万本（成人に対して約7,040万回分）が見込まれている。

諸外国においては、COVID-19パンデミックの発生以降、インフルエンザの流行が過去に類をみないタイミングで起こったり、今まで一峰性であった流行が二峰性となった地域もあったり、一度流行が収まったとしても予断を許さない状況も起きている。こうした中で、本稿で示したように複数の指標を用いて、インフルエンザの動向を包括的に監視していくことが重要である。

○無料の風しん抗体検査を実施しています

妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。風しんの予防には、ワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。風しんに対する十分な免疫があるかどうかは抗体検査で確認することができます。赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種をうけることをご検討ください。

風しんは、今は成人に多い病気で、特に 10 代後半から 50 代前半の男性、20 代から 30 代の女性が多く発病しています。

特に昭和 54 年 4 月 2 日から平成 7 年 4 月 1 日生まれの男女は予防接種の接種率が低く、昭和 54 年 4 月 1 日以前生まれの男性は子どもの頃に予防接種を受けるチャンスがありませんでした。このことから、風しんの追加対策として、昭和 37 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性には 2023 年 3 月 31 日までの間、無料の抗体検査及び予防接種（抗体検査で陰性の方を対象とする）が受けられるクーポン券が住民票のある市町村役場から発行されます。対象者の方は、まずは抗体検査の実施をお願いいたします。クーポン券の発行等についてはお住まいの市町村役場にお問い合わせください。

【無料の風しんの抗体検査について】

対象者・高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性

・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

検査結果：検査後 1～2 週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします。

●厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第 5 期定期接種受託医療機関）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html
●無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/2020051200219.html
●風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf
●風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)
https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html

★高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVID-19.html

高知県の新型コロナウイルス感染症陽性者数

日付		陽性者	フォローアップセンター	死亡者
1/9	月	595	360	5
1/10	火	636	325	2
1/11	水	1,657	347	13
1/12	木	1,116	410	11
1/13	金	936	302	8
1/14	土	921	265	7
1/15	日	649	234	2
1/16	月	340	217	5
1/17	火	1,076	228	7
1/18	水	657	229	1
1/19	木	528	181	2
1/20	金	514	166	3
1/21	土	516	159	0
1/22	日	317	115	4
1/23	月	158	91	2
1/24	火	606	113	2
1/25	水	443	128	2
1/26	木	375	124	4
1/27	金	356	87	5
1/28	土	330	86	3
1/29	日	239	78	3
1/30	月	119	82	0
1/31	火	478	78	3
2/1	水	380	98	0
2/2	木	303	59	1
2/3	金	280	72	1
2/4	土	289	62	1
2/5	日	188	50	2
総計		164,228	16,355	550

総計はR2年2月28日以降の報告者数

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850　高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961　FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは 2023 年 2 月 6 日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報

疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報（56定点医療機関）

第5週　令和5年1月30日（月）～令和5年2月5日（日）　　高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名＼保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国（4週）	高知県（5週末累計）R5/1/2～R5/2/5	全国（4週末累計）R5/1/2～R5/1/29
インフルエンザ	インフルエンザ	28	148	232	83	34	5	530 (11.78)	452 (10.04)	51,219 (10.36)	1,820 (39.57)	158,814 (32.14)
小児科	咽頭結膜熱			1				1 (0.04)	( )	375 (0.12)	6 (0.21)	1,487 (0.47)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2		8		1	3	14 (0.52)	6 (0.22)	1,271 (0.40)	29 (1.04)	4,075 (1.29)
	感染性胃腸炎	11	46	102	6	38	25	228 (8.44)	188 (6.96)	23,230 (7.38)	818 (29.21)	76,769 (24.39)
	水痘						1	1 (0.04)	1 (0.04)	228 (0.07)	7 (0.25)	1,003 (0.32)
	手足口病		2	4				6 (0.22)	5 (0.19)	322 (0.10)	33 (1.18)	1,261 (0.40)
	伝染性紅斑			2				2 (0.07)	2 (0.07)	26 (0.01)	4 (0.14)	84 (0.03)
	突発性発疹	2	2	2			1	7 (0.26)	10 (0.37)	695 (0.22)	38 (1.36)	2,741 (0.87)
	ヘルパンギーナ							( )	( )	170 (0.05)	( )	581 (0.18)
	流行性耳下腺炎							( )	1 (0.04)	76 (0.02)	1 (0.04)	291 (0.09)
	RSウイルス感染症		4				2	6 (0.22)	22 (0.81)	982 (0.31)	64 (2.29)	3,033 (0.96)
眼科	急性出血性結膜炎							( )	( )	6 (0.01)	( )	30 (0.04)
	流行性角結膜炎			2				2 (0.67)	( )	132 (0.19)	2 (0.67)	596 (0.86)
基幹	細菌性髄膜炎							( )	( )	9 (0.02)	( )	25 (0.05)
	無菌性髄膜炎							( )	( )	9 (0.02)	( )	21 (0.04)
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.13)	( )	14 (0.03)	1 (0.13)	37 (0.08)
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）							( )	( )	1 ( )	( )	3 (0.01)
	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）							( )	2 (0.25)	5 (0.01)	3 (0.38)	10 (0.02)
計（小児科定点当たり人数）		43 (14.50)	202 (21.17)	354 (29.78)	89 (23.75)	73 (28.00)	37 (7.03)	798 (21.59)		78,770	2,826 (75.29)	250,861
前週（小児科定点当たり人数）		32 (12.25)	171 (18.30)	346 (28.78)	28 (8.75)	58 (21.00)	54 (8.70)		689 (18.74)			

注　（ ）は定点当たり人数。

高知県感染症情報（56定点医療機関）定点当たり人数

定点当たり　　第5週

定点名	疾病名＼保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国（4週）	高知県（5週末累計）R5/1/2～R5/2/5	全国（4週末累計）R5/1/2～R5/1/29
インフルエンザ	インフルエンザ	7.00	13.45	16.57	20.75	8.50	0.63	11.78	10.04	10.36	39.57	32.14
小児科	咽頭結膜熱			0.11				0.04		0.12	0.21	0.47
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00		0.89		0.50	0.60	0.52	0.22	0.40	1.04	1.29
	感染性胃腸炎	5.50	6.57	11.33	3.00	19.00	5.00	8.44	6.96	7.38	29.21	24.39
	水痘						0.20	0.04	0.04	0.07	0.25	0.32
	手足口病		0.29	0.44				0.22	0.19	0.10	1.18	0.40
	伝染性紅斑			0.22				0.07	0.07	0.01	0.14	0.03
	突発性発疹	1.00	0.29	0.22			0.20	0.26	0.37	0.22	1.36	0.87
	ヘルパンギーナ									0.05		0.18
	流行性耳下腺炎								0.04	0.02	0.04	0.09
	RSウイルス感染症		0.57				0.40	0.22	0.81	0.31	2.29	0.96
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.04
	流行性角結膜炎			2.00				0.67		0.19	0.67	0.86
基幹	細菌性髄膜炎									0.02		0.05
	無菌性髄膜炎									0.02		0.04
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13		0.03	0.13	0.08
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）											0.01
	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）								0.25	0.01	0.38	0.02
計（小児科定点当たり人数）		14.50	21.17	29.78	23.75	28.00	7.03	21.59			75.29	
前週（小児科定点当たり人数）		12.25	18.30	28.78	8.75	21.00	8.70		18.74			

疾病別・年齢別報告数

高知県感染症情報（56定点医療機関） 疾病別・年齢別報告数

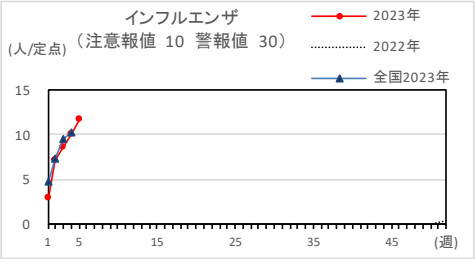
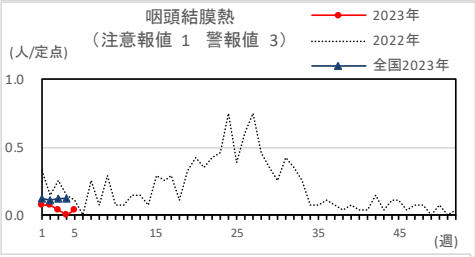
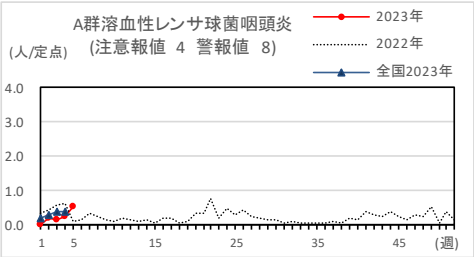
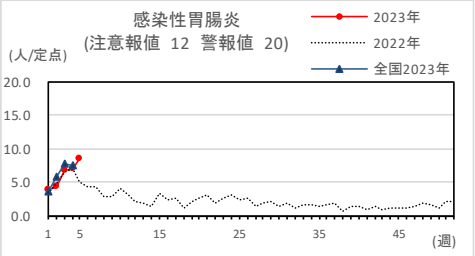
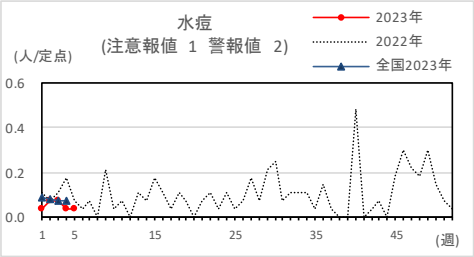
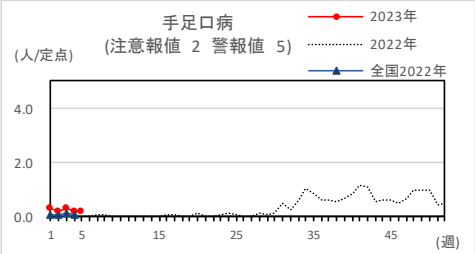
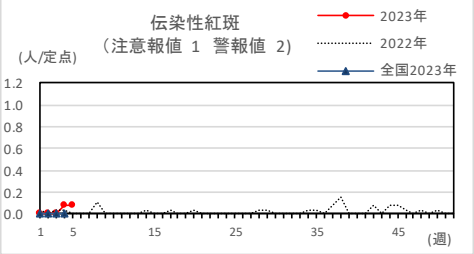
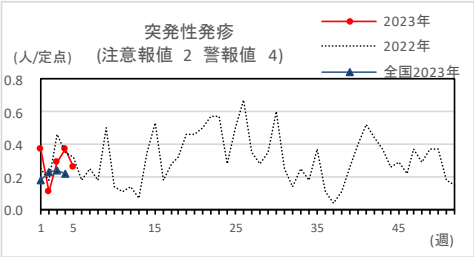
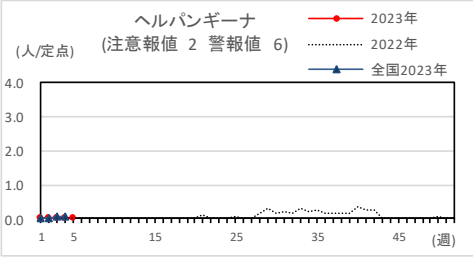
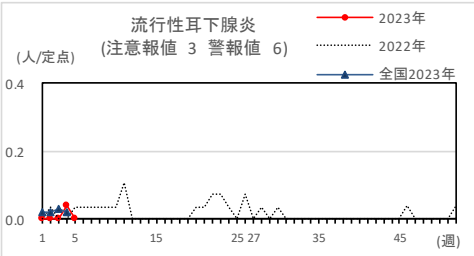
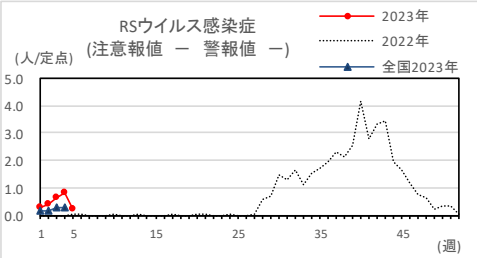
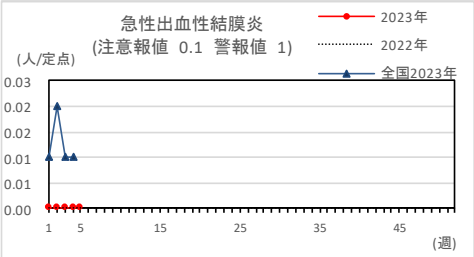
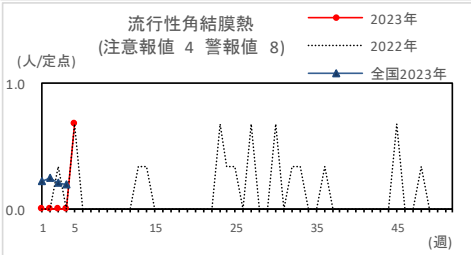
第5週

定点（定点数）	疾病名	合計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～
インフルエンザ 内科・小児科（45）	インフルエンザ	530		3	16	28	20	51	75	56	33	29	14	103	20	25	28	12	6	5	4	2

定点（定点数）	疾病名	合計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～
小児科（27）	咽頭結膜熱	1			1											
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14			1	1	1		1	2	2		1	4		1
	感染性胃腸炎	228	5	10	62	42	20	19	18	5	7	9	4	18	1	8
	水痘	1						1								
	手足口病	6			4			2								
	伝染性紅斑	2		1							1					
	突発性発疹	7		2	5											
	ヘルパンギーナ															
	流行性耳下腺炎															
	RSウイルス感染症	6	2		1	1	2									

定点（定点数）	疾病名	合計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～
眼科（3）	急性出血性結膜炎																				
	流行性角結膜炎	2														1				1	

定点（定点数）	疾病名	合計	0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～
基幹（8）	細菌性髄膜炎																	
	無菌性髄膜炎																	
	マイコプラズマ肺炎	1																1
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）																	
	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報　疾病別年次報告数推移（2023年　第5週）